

2025年も 私たちは 本を届ける

未来へ読み継ぐ、
その手に届けるために。

私たちは2024年の秋から「能登を走るブックカフェ」を開いてきました。

仮設住宅など慣れない暮らしの中にいる人々に、本と静かに向き合える時間を届けています。

心が不安でいっぱいなときほど、「本を読む時間」が、未来とつながる糸になる—
私たちはそう信じています。

たとえ生きている世界が違ってても、「読むこと」への願いはきっと同じ。「誰もが本と出会えるように」という想いが、被災地にも、内戦後の地にも届いています。

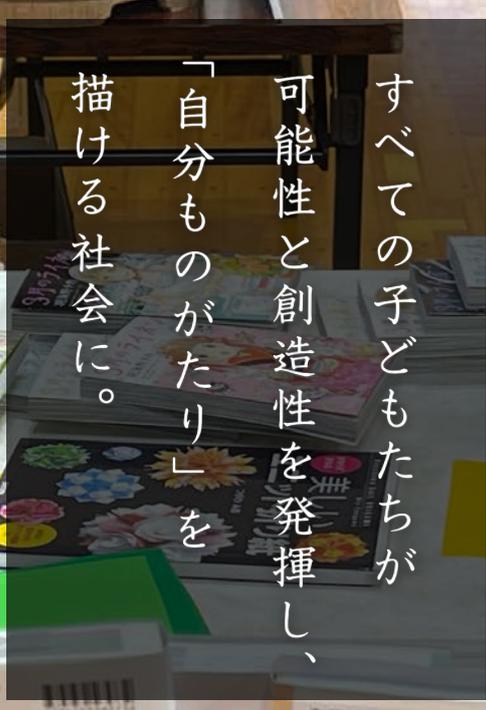
この夏、
私たちと一緒に、
本を届けませんか。

それは、未来を届けること。
あなたの想いを、
学びに出会うすべての人に
読み継ぐために。

エファジャパン夏募金 2025

2025年6月21日(土)~8月31日(日)





夏募金でいただいたご支援は、
以下の活動のために大切にに使わせていただきます。

- ・ 能登半島地震の被災地でのブックカフェの開催および集会場への本棚と本の設置
- ・ カンボジアとラオスにおける障害がある子どもたちへの図書館事業



2025年も私たちは本を届ける

未来へ読み継ぐ、
その手に届けるために。

エファジャパン夏募金 2025

2025年6月21日（土）～8月31日（日）

クレジットカード

以下のQRコード、もしくは検索いただくと、夏募金のページへアクセス、簡単にご寄付いただけます。スマートフォンからのご支援も可能です。



エファ 夏募金2025



銀行振込

- 中央労働金庫(2963) 市谷支店(299)
普)1442725 トクヒ)エファジャパン
- 三菱UFJ銀行(0005) 市ヶ谷支店(014)
普)1340692 トクヒ)エファジャパン

※寄付金受領書を発行します。

お振込み後、事務局までメールか電話でご連絡ください。

郵便振替

00190-6-723415 加入者名)エファジャパン

※寄付金受領書を発行します。

払込取扱票通信欄に「夏募金」とご記入ください。

〒102-0074

東京都千代田区九段南3-2-2 九段宝生ビル3階

認定NO法人 エファジャパン

TEL 03-3263-0337 Email info@efa-japan.org

本を届け、未来を届ける

エファジャパン（以下、エファ）は、2004年の設立以来カンボジアやラオスで教育福祉支援を行ってきました。

現在は、障害者が「学びをあきらめない」ため、放課後学習教室やモデル図書室の整備、紙に加えデジタル図書の開発と提供、人材育成のための活動にも力を注いでいます。

生きるために必要な文字を伝え、生活を支える情報を届ける本。時には大笑いし、時には涙するなど、感情を震わすことができる本。

私たちはこれからも本を届け、未来を届けていく取り組みを続けます。



本を届ける

エファの活動



場所をつくる



人を育てる

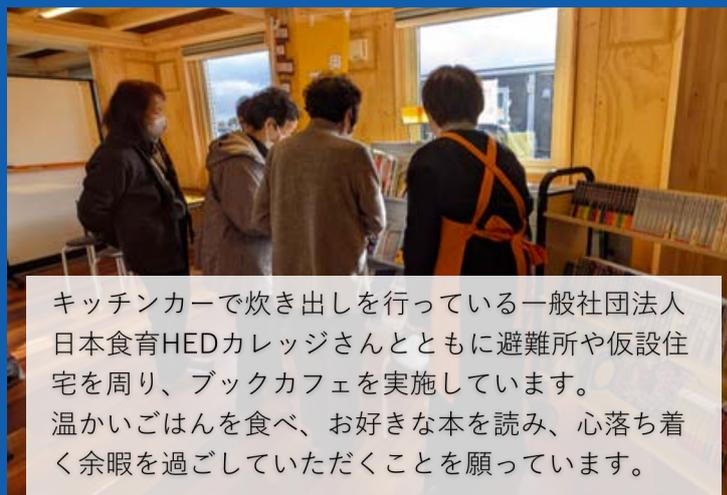
「新しい年を迎えた日」を襲った震災、そして豪雨による二重被害に遭った能登半島で

情報提供支援と現地調査

エファは2024年1月3日から障害がある方、日本語を母語としない方たち向けにアクセシブルな形での情報提供を実施。4月からは能登半島入りをして、現地調査を行いました。



レスキューキッチンカー&ブックカフェ



キッチンカーで炊き出しを行っている一般社団法人日本食育HEDカレッジさんとともに避難所や仮設住宅を周り、ブックカフェを実施しています。温かいごはんを食べ、お好きな本を読み、心落ち着く余暇を過ごしていただくことを願っています。

『能登を走る！ブックカフェ』に参加された方の声



地元生まれ、地元育ち。若い時分には金沢にも行っていたが、やっぱりここがいい。

ここに住んでいる30代以上の人たちも、一旦外は出ても、兄弟の内一人は帰ってきている感じじゃないかな。不便かもしれないけどここが一番好き。知っている人もいるし、野菜も美味しいし、新鮮な魚ももらえるしね。

以前同じケーキ屋で働いていたが一人を除いて、震災後辞めてしまった。仕込みで早かったり遅かったり、祝日などの記念日は大忙しで大変な仕事。でも皆仲良しなので、今日のお茶会の話聞いて集まった。

料理本が嬉しい。珠洲にあるスーパーは一通り買い物できるけれど、同じものばかりで何を作ればよいかわからなくなってしまう。料理本見ると、これ作ってみようと思えて気分が明るくなる。(1月26日 珠州市)

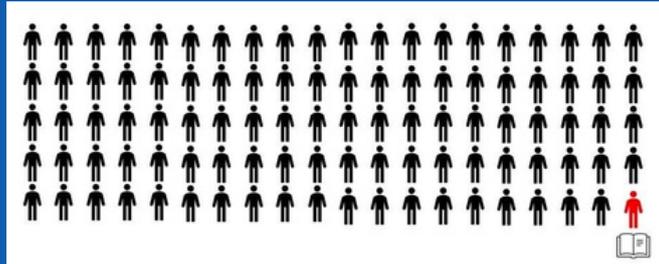
内戦で国民の25%が命を落としたカンボジアで

開発途上国に暮らす障害者が利用可能な書籍は、毎年出版される本の1%以下と推定されます。

内戦で多くの本が焼かれ、本を書ける知識人が虐殺されてしまったカンボジアでも、障害者の方が読める本はより限られています。

エファは農村部に暮らす障害児のために「チルドレン・スタディ・クラブ」を設置運営し、教育の機会を届けています。

障害者が利用可能な書籍は1%以下



チョイリザーさん

チルドレン スタディ クラブの生徒

前は勉強が好きではなかったけれど、クラブのコレチャンダラー先生が、とても楽しくわかりやすく教えてくれるから好きになりました。私も将来は先生になりたいです。生徒たちに知識を与える人になりたいです。

コレチャンダラー先生

チルドレン スタディ クラブのボランティア先生

高校を卒業後は、農業で生計を営んできた私。ある時、我が子が通う小学校から「お子さんは発達障害があるので、村で始まったクラブに通っては」との話がありました。仕事に忙しく、子どもの問題に気づくこともなかった自分は、戸惑いと少しばかりの後悔を感じました。丁度そのころ、クラブの先生の募集を始めることを聞きつけ、応募することに。自分の子どものために、という思いもあり、一時は教員を夢見ていたころを思い出して、このチャンスに一念発起しました。

世界一の 不発弾汚染国と呼ばれる ラオスで

パイワン・
ウドムナコーンシーさん
ラオス国立図書館読書促進課 移動図書館担当



ラオス国立図書館は移動図書館等でエファと協働しています。以前は障害のある子どもたちが通う学校では活動を行っていませんでしたが、エファとの活動を通じて、そうした子どもたちと出会う機会をいただきました。

移動図書館では、読み聞かせ、お絵描き、ダンス、工作など、楽しい活動がたくさん。いつも笑顔があふれています。子どもたちの輝く表情に触れ、私たち自身も大きな喜びと学びを得ることができました。

まだ、私たちは障害のある子どもたちと接する経験が浅く、試行錯誤の日々ですが、少しずつ学びを重ね、本を通じて心をつなぐ活動にとり組んでいきたいと思っています。

より多くの子どもに本の楽しさを届けられるよう、そして、誰もが平等に学びや感動に触れられるようがんばります。